

## ごみの有料化について

### 1. 目的

#### ①排出抑制・再生利用の推進

費用負担を軽減しようとするインセンティブが生まれ、排出抑制が期待できる

#### ②公平性の確保

排出量に応じて手数料を徴収することで、費用負担の公平性が確保できる

#### ③住民の意識改革

費用負担が発生することにより、市民が処理費用を意識し、ごみの排出に係る意識改革が期待できる。

#### ④その他

排出抑制・再生利用の促進により、焼却処理量や最終処分量が軽減されることで、環境負荷や処理費用の低減が期待できる。また、手数料収入を廃棄物関連施策の財源に充てることにより、施策の充実が期待できる。

### 2. 有料化のメリット

#### ①3Rの促進

家計からの支出が増加するため、経済的インセンティブが働く

#### ②公平性

排出量に応じた手数料負担

### 3. 有料化のデメリット

#### ①不法投棄の増加の懸念

不法投棄は、有料化されなくとも発生していましたが、全国のごみ有料化を導入した市町村の調査事例から、問題になるほどの不法投棄が起こっていないとの報告がされています。

#### ②不適正排出の懸念

#### ③野焼きの増加の懸念

### 4. 有料化手数料の料金体系

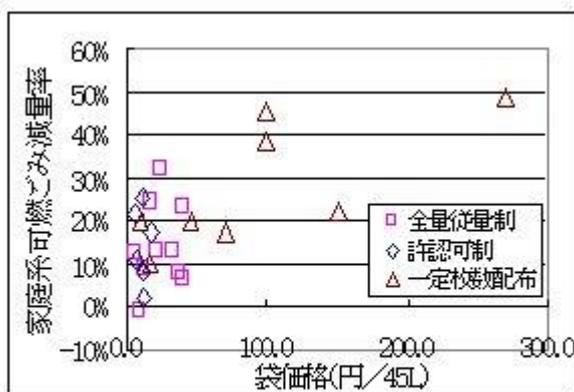
別紙参照

有料化を実施している市町のうち、排出量単純比例型を採用している市町がほとんどである

## 5. 手数料の水準

排出量単純比例型における手数料の料金水準は、大袋（45ℓ）1枚20円台・30円台・40円台が多い。また手数料が高くなるほど件数は減少しているが、80円台は50円台に次いで多くなっている。近年大袋60円台が増えている。

### ①有料化による排出量



可燃ごみ有料化における  
最大袋価格とごみ減量率の関係

※山川会長 HP より

### ②有料化の対象品目

有料化の対象となるごみ区分			該当市町村数
可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	
○	○	○	25
○	○		27
○		○	3
○			8
	○		1

※環境省「自治体のごみ処理有料化施策に係るアンケート」(H18. 10) 64市町回答

## 6. 有料化実施状況

全国市町村の有料化実施状況 (H23. 4.1 現在)

	総数	有料化数	有料化実施率
市区	809	434	53.7%
町	754	500	66.3%
村	184	117	63.6%
市区町村	1,747	1,051	60.2%